

にしきシャクナゲまつり 5年ぶりに完全復活!



リポーター 小山美樹さん

かつて、白、赤、ピンクに咲き誇るシャクナゲの花が華やかに咲き誇り、参加者の目を楽しませていた「にしきシャクナゲまつり」。担い手の高齢化や後継者不足、そしてコロナ禍も重なり、まつりは一時中断していました。

しかし、地域の皆さんの熱い思いと支援により5年ぶりに復活することになりました。今回のレポートでは、復活への思いをお聞きするとともに、シャクナゲまつりの新たな魅力を紹介します。

にしきシャクナゲまつり
 とき 4月20日(土) 9:00 ~ 16:00
 ところ シャクナゲ公園(下板井)
 問い合わせ
 にしきシャクナゲまつり実行委員会事務局 ☎090-7505-0550 (9:00 ~ 17:00)



にしきシャクナゲまつりを復活された実行委員会の皆さん(高橋隆治さん=右)



前回、開催されたまつりの様子。尺投げ大会(左)、即売会

シャクナゲの普及を願って

旧西紀町では、町花であるシャクナゲの普及を願って、「シャクナゲを育てる会」が主体となり、一戸に一鉢運動が行われてきました。各々がきれいな花を咲かせる中で、鉢を持ち寄ってシャクナゲを愛でるイベントが開催されるようになりました。そして、イベントを開催するにつれて参加者も増え、1981年に第一回目の「にしきシャクナゲまつり」が開催されることになりました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2020年以降は開催を中止。その後、再開の動きもありましたが、実行委員メンバーの高齢化や後継者不足などもあり、中断することになりました。

地元有志の力により復活

まつりが中止になっても、シャクナゲを咲かせるには公園の維持や管理は必要で、実行委員のメンバーと西紀商工会活性化研究会のメンバーが共に作業を行われてきました。その中で、シャクナゲの魅力発信しなければならぬという強い思い

いから、今年1月に高橋隆治さんを中心しきシャクナゲまつり実行委員会が発足。「Re..シャクナゲまつり」と称して、シャクナゲまつり復活をめざす運びとなりました。

実行委員会では、「訪れた方々に主体的にシャクナゲの魅力を感じてほしい」「地域の祭りやイベントが少ない中で、子どもたちも楽しんでほしい」と考え、「コンセプトは【地元の花見】となっています。

新しい試みである「夜の花道」と題した夜間ライトアップでは、開花から1週間ほど昼間の姿とは異なるシャクナゲの様子を愛でることができず。また、飛距離などを競う尺投げ(シャクナゲ)大会、飴細工や駄菓子などの縁日ブースやキッチンカーの設置、ステージイベントでも西紀中学校吹奏楽部や地元のキッズダンス、プロの大道芸など、子どもが楽しめる工夫がされています。

まつりを盛り上げよう

高橋委員長は、「にしきシャクナゲまつりの復活で、西紀地区にしゃくなげ公園があることや、大切にしゃくなげを育て続けていることを再度認識してほしい」と話されます。続けて、「今後も、地域の皆さんと協力して公園の維持管理を続け、元気づく遊ぶ子どもたちの姿を見ることができればうれしいです」と期待を込めて話されました。

その一方で、シャクナゲの記念植樹会やにしき音頭保存会による演奏など、先人たちが守ってきた西紀の面影を強く感じることもできます。

今年のイベントの開催は1日だけですが、来年度は、大阪・関西万博に合わせた「丹波篠山国際博」にちなんで、二日間の開催も視野に入れられているシャクナゲまつり。その足がかりとなる「Re..シャクナゲまつり」の盛り上がりがかんがえられています。

シャクナゲ(ツツジ科)

4月上旬から5月にかけて、10数輪の花が集まったくす玉状の豪華な花を咲かせます。豪華で美しい花を咲かせることから「花木の帝王」と呼ばれます。

昔は里山でよく見られましたが、自生のはごく少なくなり、西紀地区の「つつみ公園」(本郷)をはじめ、シャクナゲ寺とも呼ばれる「松隣寺」(本郷)、天神の森(高屋)などで楽しむことができます。

